


# 研修

A small decorative graphic consisting of a blue circle with a yellow dot inside, surrounded by a dotted line.

社会の情報化が急速に進み、インターネットによって新しい技術や仕組みが一気に拡散して生活が変容し、社会や家庭が学校教育に対して期待する内容が多様化するなど、教員に求められることは増えていくばかりです。

クラウドを活用し、学校内に限らずいつでもどこでも学べる環境が広がる中、教員は、教員免許を取得するまでに得た知識や先輩や同僚の経験から学ぶだけでは、社会の新たな要望や課題に柔軟に対応していくことはできません。

教員は「教えるプロ」でありながら、子供たちの手本となる「学ぶプロ」である必要があります。自らの資質を向上させるために、学ぶ機会を確保し、オンラインを活用した研修の機会や、実社会における体験活動など学びの時間を充実させることが大切です。

多忙で負担も大きいと感じている教員が、自らを高めたり、授業の予習をしたりする学ぶ機会が不足していると感じています。一人でも多くの教員が学べるチャンスを与えることが、研修を企画するポイントになります。

# 多様なニーズに応じた 研修スタイルを考えましょう



## 基本的な考え方

1. **研修する学校、自治体が導入している情報端末やコンテンツを確認しましょう**  
学校や自治体によって導入される情報端末やアカウント等は千差万別です。  
可能な限り学校と同じ環境で研修に取り組みます。
2. **受講者の属性を確認しましょう**  
受講者の職位によって、取り扱う内容やポイント、研修の方法が異なります。
3. **研修計画や開催方法を確認しましょう**  
研修は単発、連続、対面、オンラインによって、研修の内容・方法が異なります。



## 解説

### 1. 研修する学校、自治体が導入している情報端末やコンテンツを確認しましょう

研修する学校や自治体によって導入されている情報端末やOS、アカウント、ソフトウェア、ネットワークのセキュリティの設定等は千差万別です。受講者が学校で実践していく環境と同じ環境で研修に取り組む必要があります。

例えば、AというOSを活用してそのOSに偏った内容で研修を行ったとします。情報端末が導入され、BのOSで取り組むつもりだった受講者の先生はOSが入ってきた場合、できないことがあるために、モチベーションの低下につながるかもしれません。講師はできるかぎり自治体や学校で活用していくOSや情報端末、ソフトウェアによる体験や事例の提示を行っていく必要があります。

また、自治体によっては同じ情報端末やOSが導入されたとしても、設定やセキュリティのレベルが違うため、実践できることが変わってきます。研修担当者は事前にできるだけ、自治体や学校の担当者と導入される環境がどのようなものなのかを確認しましょう。

### 2. 受講者の属性を確認しましょう

受講者が管理職なのか、指導主事なのか、研究・研修主任なのか、教務主任なのか、教諭なのかによって、研修の内容やポイントが変わります。

例えば、管理職を対象にした場合には、GIGAスクール構想で情報端末が導入される理由はもちろんのこと、情報活用能力を育成するための授業を教育課程にどのように位置づけていくのか理解していただく必要があります。指導主事を対象にした場合には、自治体で情報端末をどのように使っていくのか、どのタイミングでどのような文章を学校や地域に通知していくのかなどを考える必要があります。また、研究・研修主任を対象にした場合には、学校の教員や児童生徒、保護者の実態に応じた

研修計画の作成と実施について考える必要があります。教諭を対象にした場合には、学級や教科担任として、情報端末を活用してどのような授業を展開していくのかなどを考える必要があります。

GIGAスクール構想と一言で言っても、立場や役割によって、身に付けないといけないことは全く違います。受講者の職位や校務分掌を事前に確認していくことは大切な下準備です。

### 3. 研修計画や開催方法を確認しましょう

研修は単発なのか、連続なのか、対面なのか、オンラインなのかによって、研修内容・方法が変わります。例えば研修が単発の場合、伝えることを精選する必要があります。その際には研修先が導入している情報端末やコンテンツを確認するヒアリングが役に立ちます。連続的な研修を実施するのであれば、第1回の研修で課題を提示し、第2回では課題を持ち寄って受講者同士の実践報告などのディスカッションを可能とすることで、受講者同士の横のつながりや、地域で実践に取り組んでいくための素地を作れるようになります。

また、新しい研修のスタイルとして、オンラインでの教員研修があります。クラウドを理解する研修内容などは、情報端末をクラウド上で活用することになりますので、対面よりもオンラインで取り組んだ方がよりリアルな研修になります。

連続する研修の場合は、できるだけ方法や研修の展開を同じようにしていくことで受講者の負担を減らすことができ、内容がより深まりやすくなります。また、研修後には受講者アンケートを行い、受講者が困っていることや悩んでいることは、次の研修の最初にQ&Aのような形で回答すると受講者が安心して取り組めるようになります。

イメージ図

遠隔教員研修

遠隔会議システムは、教員自身のスキルアップにも活用できます。教員研修や各種会議等をオンラインで実施することで教員の負担軽減や業務効率化につながります。

遠隔教員研修の利点

利点	概要
時間の節約	遠隔研修は場所を問わず参加できるため、講師や受講者の移動時間が節約できる。
コストの削減	遠隔から参加する講師や受講者は旅費交通費が必要なくなる。また、接続形態によっては会場費もかからない。
スケジュール確保が容易	研修以外の時間を拘束する必要がなくなるため、スケジュール調整が容易になる。また、接続形態によっては会場確保の必要がなくなるため、さらに調整の幅が広がる。
密集を避けられる	遠隔研修では講師・受講者が一か所に密集した環境で受講する必要がないため、新型コロナウイルス等に対する感染リスクを軽減できる。
研修機会を増やす	遠隔研修であれば、対面研修と同等のコストがあればより多くの研修を企画でき、またそれに参加するスケジュール確保も容易となるため、様々な研修を受講しやすい。
資料が見やすい	通常の研修の場合、座席位置によっては投影された資料が見にくいことがあるが、遠隔研修で自らの端末に資料を投影できる場合、資料が見やすい。
振り返りがしやすい	遠隔研修の場合、研修の様子を録画撮影することが容易であり、参加できなかった受講者が後日受講したり、改めて研修を見返したりする対応がしやすい。

**遠隔教員研修の事例**

遠隔教員研修はどのようにして接続するかによって、4種類に大別することができます。ここでは、「遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証」の中で実践された遠隔研修の取り組みについて紹介します。

研修形態	受講者	
	研修会場から接続	自宅から接続
ICT活用研修(京都府)	京都府は府内全域の教員を対象に、授業で活用できるICTツールの使い方に関する研修を行いました。府内3拠点を会場にしてZOOM・Teamsでつなぎ、教員は各拠点から近い会場に集まって受講しました。	教育の最新動向に関する研修(北海道教育大学附属高等学校) 北海道附属高等学校では、定期的に専門家を招聘して、講演会を企画しており、千葉県内の学校もその講演会に参加しました。遠方から参加する教員は、ZOOM上で講演を聴講し、またディスカッションにも参加しました。
人権研修(鹿児島県三島村)	三島村にあり移動手段が遠く4校の集まらない三島村では、村外から講師を招聘して研修を行うことが困難でしたが、鹿児島市内にある教育委員会による講師と村内全4校をSkypeでつなぎ、人権研修を行いました。	ICT活用研修(信州大学) 信州大学では、飯田市内の小中学校ICT担当教員を対象に研修を実施しました。研修はZOOM上で行われ、講師は信州大学の自宅から説明を行い、それを聴講する教員もまた自身の学校から各自参加しました。

イメージ図引用元：文部科学省（2020年発行）  
「学びを止めない！これからの遠隔・オンライン教育」P.6 遠隔教員研修  
[https://www.mext.go.jp/content/20210226-mxt\\_jogai02-000010043\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210226-mxt_jogai02-000010043_001.pdf)

事例

【長野県飯田市の遠隔オンラインによる中核教員研修】

8月下旬から12月上旬にかけて、信州大学と飯田市（長野県）の各校を結び、遠隔オンラインによる中核教員研修を実施しました。

事前に研修担当者は Google Classroom に研修内容や課題、スケジュール、Zoom の ID を提示しておきます。受講者の教員は、当日までに Google Classroom を確認し、当日は時間になったら Zoom にログインして参加します。

第1回の研修では、飯田市の指導主事から飯田市のグランドデザインや情報端末の導入や実践時期の開始スケジュールが示されました。その上で、研修担当者から GIGA スクール構想はなぜ取り組むのか、日本の児童生徒の情報活用能力や読解力、ICT を学習でどのくらい活用されているのかについて講義し、受講者は各校の児童生徒の実態や授業での取組状況について議論しました。

第2回の研修では、第1回の振り返りと受講者から質問について回答した後、クラウドを活用した共同編集・協働学習の体験に取り組みました。Google スライドの1枚1枚が各グループに割り振られ、各グループは課題に従って、スライドを作成し、発表をする、という流れで実施されました。

第3回の研修では、第4回までに①各校で中核教員が教員研修を実施 ②クラウドを活用した授業を学校の先生方に取り組んでいただく ③その様子を記録してスライドを作成し、Google Classroom に提出する ④第4回の研修でオンライン上でスライドを活用して発表するという課題を提示しました。①の研修が各校でできるようになっていただくために、中核教員には「今から体験することを各校でそのまま実施、少しアレンジして実施してください」とお伝えし研修に取り組んでいただきました。その後、研修で使ったスライドを Google Classroom で先生方に共有しました。

第4回では、全ての先生が各校での取り組みを発表し、議論を深め、知見を共有することができました。

8月27日・28日のオンライン研修について 期限: 2020/08/27 15:00

【27日の事前準備】

- 事前にリンクされた動画をご視聴して参加していただけますとスムーズです。  
文部科学省「学校における1人1台端末環境」公式プロモーション (3分1秒)  
[https://www.youtube.com/watch?v=k0wqx\\_wyRKM](https://www.youtube.com/watch?v=k0wqx_wyRKM)
- G Suite デモ・オンラインでドキュメント共有&編集 (1分23秒)  
[https://www.youtube.com/watch?v=k\\_5Gq3wExk0](https://www.youtube.com/watch?v=k_5Gq3wExk0)
- Classroom をにログインした状態でご参加ください
- Zoom で参加されましたらマイクをオフにしてください  
Zoom 参加に不安な方は以下をご覧ください。  
Zoom の音声（マイク・スピーカー）設定  
[https://www.youtube.com/watch?v=7L\\_J4osF3nc](https://www.youtube.com/watch?v=7L_J4osF3nc)

## 2

# 日頃の教育実践を紹介するような 研修を創りましょう



## 基本的な考え方

### 1. 日常の授業改善につながる研修

日常の普通の授業で ICT が活用されることが GIGA スクール構想のゴールです。

### 2. 形式にとらわれない実質的な研修

形式重視の研修は必要ありません。適切な時間ですぐに役立つ実質的な研修が大切です。

### 3. 写真・動画・オンラインを活用する研修

写真・動画で簡単に良い事例を共有しましょう。オンラインなら他校との研修も簡単です。



## 解説

GIGA スクール構想の実現のためには、実質的な研修を行うことが大切です。働き方改革にも配慮して、短時間ですぐわかる研修スタイルをつくるためのポイントは次の3点です。

### 1. 日常の授業改善につながる研修

一方これまで、研究会では ICT 活用の授業を日常の授業で行うのは難しいということがありました。

GIGA スクール構想では、日常の授業の中で文房具と同様に ICT を活用することになります。そのためにも、小さな実践をたくさん共有することが何より大事です。そして実践を共有する中で、より効果的で効率的な方法を見つけ出していきましょう。これからは「楽しく走りながら考える」という新しい研修のスタイルが求められています。

そのような研修スタイルは、「働き方改革」にもつながります。先生たちの放課後の時間はごくわずかです。休憩時間を取れば1時間の研修時間を確保するのは難しいので、研修は短時間で効率的に進めることがとても重要です。形式的な内容は最小限にして、実質的な研修を行うアイデアを考えましょう。

### 2. 形式にとらわれない実質的な研修

これまでの研修会では、会議室にみんながネクタイを締めて出席し、挨拶等から始まるが多かったと思います。GIGA 時代の研修は、もっとカジュアルに実質的に進めましょう。そのアイデアとして、①空き時間に隣の教室の ICT 活用を見に行く（5分程度で十分）②自分のトライアルを参加できる人だけに見てもらい、放課後意見交換（次頁・事例「授業道場」参照）③毎週当番を決めておき、放課後の全体打合せのあと5分間で GIGA スクール構想実践を報告④日常授業に役立つ GIGA スクール構想実践情報の URL を校務支援システムの掲示板で共有⑤新聞記事、専門誌、教育向けフリーペー

パー等の実践事例を事前共有し、一週間後に集合研修で自分が感心のある実践について小グループで意見交換。

「同時に」「全員集合で」行う研修は、なかなか時間が取れません。小さなアイデアで形式にとらわれず短時間で小刻みに行うのが GIGA スクール構想時代の研修です。

### 3. 写真・動画・オンラインを活用する研修

短時間で効果的効率的に研修を進めるためには、写真・動画の活用がとても有効です。写真・動画を使えば、どんな実践なのか、すぐに共有することができます。一番簡単なのは写真です。日頃から学校のみんなの実践を写真で記録する習慣があるとよいでしょう。1枚の写真を元に、何をしているのか、工夫は何か、どこが効果的効果的だったのか、子供の声、課題等を5分程度で説明するといった研修が考えられます。動画の活用もとても効果的です。ただ動画の場合は「音」が上手く収録できないことがありますので注意が必要です。また、文字情報中心の場合は、A4 版用紙1枚にまとめるなど簡単な方法が重要です。この写真や動画による日常実践の共有は、短時間のプレゼンテーションにすると分かりやすくなります。さらに、Web 会議システムを使って研修すれば、近隣校との同時研修も簡単です。

研修の様子をクラウド上に保管しておけば、忙しい先生も空き時間に見ることが可能となります。気になる実践は繰り返し見ることも可能です。

文部科学省をはじめ、北海道教育委員会、奈良県立教育研究所や奈良市教育委員会（奈良県）等の Web サイトにも日常的な活用の情報がたくさんあります。こうしたすでにある情報を校内研修でも積極的に活用することで研修の質を高めることができます。

## イメージ図



## ICT活用授業モデル【Tips編】

授業等でICTを活用するヒント（Tips）を集めたページです。

小学校編

中学校編

高等学校編

特別支援学校編

[ICT活用ポータルサイトに戻る](#)

### 全校種のTips一覧

すべての校種のTips一覧はこちらのファイルから確認できます。

[Excel版](#)

[PDF版](#)

Powered by NetCommons2 The NetCommons Project

イメージ図引用元：北海道教育委員会 Web サイト

「ICT活用ポータルサイト」ICT活用授業モデル【Tips編】

[http://www.ict-portal.hokkaido-c.ed.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&page\\_id=30](http://www.ict-portal.hokkaido-c.ed.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=30)

## 事例

### 1. 授業道場

日常のICT活用推進のために「授業道場」という研修の仕組みを作った例があります。

- ・校務支援システムに授業公開予定・指導して欲しい点等を授業者自身が記入
- ・指導案を書く場合はA4版用紙1枚以内
- ・無理なく参加出来る教師だけが参観（管理系は最低1名参加）
- ・45分全部でなく、部分的な参観も可能
- ・放課後授業を見た教師が15分を目途に良い点や改善点を話し合う

これにより、できる人ができるときに気軽に授業を公開し学び合うことができました。理論よりもICT活用の小さな実践の共有に有効です。

### 2. Web上の研修情報の事例

研修を行うに当たって、文部科学省や先進自治体の教育委員会のWebサイトに参考となる情報がたくさんあります。最新の情報を踏まえ、質の高い研修を行いましょ。代表的なWebサイトを紹介します。

#### ①文部科学省「StuDX Style」Webサイト（図1）

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

#### ②北海道教育委員会Webサイト「ICT活用ポータルサイト」ICT活用授業モデル【Tips編】

[http://www.ict-portal.hokkaido-c.ed.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&page\\_id=30](http://www.ict-portal.hokkaido-c.ed.jp/index.php?action=pages_view_main&page_id=30)

#### ③奈良県立教育研究所Webサイト「先生応援プログラム」

<http://www.e-net.nara.jp/kenkyo/index.cfm/17,0,121,html>

#### ④奈良県立教育研究所YouTubeチャンネル（図2）

[https://www.youtube.com/channel/UC\\_BLYd9](https://www.youtube.com/channel/UC_BLYd9)

#### ⑤奈良市教育委員会Webサイト「奈良市版GIGAスクール構想」

<https://www.city.nara.lg.jp/site/gigaschool/>



図1

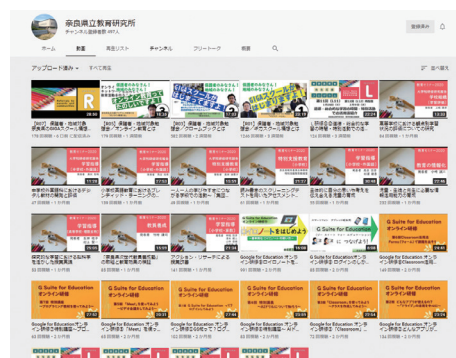


図2

Q1

**ICTの活用に不安や苦手意識を持っている教員に対しては、どのような配慮をしたらよいでしょうか。**

A

- ・ 担当者と教員の信頼が重要です。信頼されている担当者であれば「先生が言うなら頑張ろうかな」という気持ちで進めることができます。
- ・ 不安や苦手意識を持っている人にいつも寄り添うことが重要です。どんなに簡単なことでも、苦手な人にとっては大きなストレスです。そのストレスをできるだけ少なくしながら進められる体制をつくること、そして少しずつ手放しながらできることを増やしていくことが重要です。
- ・ 成功体験を披露する場を作っていきます。少しでもICTを活用していたら、そのことを取り上げ、職員室の掲示板で紹介します。教員用のLMS（学習管理システム）などにそのことを紹介することで「自分の実践も役に立つんだ」と感じていただくと同時に、LMSに触れる機会を同時につくるなどしていきます。「成功体験の共有と巻き込みはセット」で取り組みます。
- ・ ICT担当だけでGIGAスクール構想を推進するのではなく、研究主任（研修主任）や教務主任と一緒に取り組みます。職務上、研究主任は研修を計画する立場にあり、教務主任は学校全体のマネジメントをする立場にあります。こうした立場にある先生方とGIGAスクール構想の取組を教育計画に埋め込んでいく必要があります。

Q2

**校内研修の時間を確保することが困難です。何か良い工夫はありませんか。**

A

- ・ 研修講師と受講者教員が、同じLMSで情報を共有することで、常に研修講師から研修資料を提供することが可能になります。そのためには、研修講師にアカウントを配布しておく必要があります。
- ・ GIGAスクール構想と同様の環境で職員会議や学年会に取り組みます。日々の校務の中で、子供たちに提供する環境と同じように会議資料をアップロードしたり、クラウド上で議論することを通して、感覚的にわかるような環境を準備していきます。

Q3

**オンラインで研修を行う場合のポイントを教えてください。**

A

- ・ 1時間以上の長時間の研修ではなく、15分から長くても30分程度の短時間の研修を繰り返すとよいでしょう。
- ・ 1時間以上の研修を一度取り組んだとしても、たった一度の研修でできるようになることは珍しく、例え研修で体験をしたとしても、定期的に取り組まない限りすぐに忘れてしまうことになり、研修の効果を発揮することはできません。
- ・ 短時間の研修を週1回程度で繰り返していくことで、同じ操作、同じ手順を何度も取り組みながら、自然に覚えて、できるようになっていきます。短時間の研修は負担やストレスもかかりにくくなります。
- ・ 受講者側は、集合でも教室からでもどちらでもかまいません。ただし、必ず1人1台の情報端末を用いて研修に取り組みます。講師からリンクが送られる状況にしておくことで、オンラインでもGIGAスクール構想と同様の環境で研修に取り組むことができます。このような環境で取り組むことで、むしろ対面よりもGIGAスクール構想の学習環境を理解しやすくなります。